

湊かなえ原作「告白」－主人公の原因と犯罪分類

概要

序論

人生では、すべてが標準に沿って行くわけではない。人生は陰と陽があり、それは良い面と悪い面である。人生の暗い側面には非常に多くの犯罪性があり、最悪の犯罪性の一つが殺人である。人間として、他人の命を奪うことは適切ではない。しかし、殺しは絶対的なことであり、この世で必ず起こる。基本的に、殺人の加害者は、性別や年齢制限にかかわらず、誰でもすることができる。これは、未成年者による殺人事件につながる。それは不適切な問題であり、彼らの年齢には適さない。事実上、彼らの年齢の子供たちは、学習、遊び、または計画や殺人ではなく、親からの愛情を得ることなどの通常のことをする傾向がある。しかし、殺人の背後には、行動の根底にある原因がなければならない。この問題を踏まえて、筆者は研究として湊かなえの小説を作ることに興味を持っている。

「告白」の小説で重要な役割を果たしている二人の主要な人物、渡辺修也と下村直樹がいる。この小説は、彼の担任の子供と親戚に殺人をした二人の中学生について語っている。殺人の一部は謀殺であり、他一部は自発的殺人であった。この論文は犯罪学と心理学的な理論を用いている。犯罪学は、犯罪行為を調べる科学研究である。犯罪者の表明を含めて、犯罪者のための原因と犯罪動機、法と管理の側面で、精神病理学とは、科学分野に関する異常行動や精神障害の研究である。しかし、基本的に異常行動者を持っている人は必ずしもサイコパスではない。

彼らの犯罪の背後には、修也と直樹が殺人を犯す原因がいくつかある。この原因は大きく二つに分けられる。最初は、個人的原因には生物学的原因と心理的原因がある。次は、社会的原因を含む状況的原因である。彼らが犯した殺す方法にも基づき、犯罪分類と性格の分類から見ることができる。犯罪分類は、加害者が組織化された犯罪者であるか否かを示す。性格の分類は、加害者の心理学的側面の特徴を分類する。

本論

犯罪学におけるミクロ理論により、この理論は、加害者に何が犯罪行為を起こさせるのかを見つけることができる。一つの根拠は病原の原因を知ることができる。修也の場合の病原の一つは、家族の愛情不足である。

「Travis Hirschi」の理論によつては、犯罪行為は、家族、学校、同僚などの従来の社会集団との関係における失敗である。これは、個人の子供時代の経験が将来の犯罪を行う機会に影響を与える可能性があるという考えに沿い精神力学的「Psychodynamic」の理論によって支持されている。子供のころ修也の両親は離婚したので、育ったときには母親の姿を伴わなかった。これは次のデータに説明される：

死に方を必死で考えているあいだに、両親の離婚が成立した。自分わ十歳。父親が虐待に気付いたのだ。商店街の誰かが、告げ口したらしい。母親は何の言い訳もせず、手続きが終わり次第、家を出ていくことを決めた。

(Minato, 2008 : 238)

そして、直樹の病原については、彼は怒りと復讐に圧倒されているので。病原は、直樹の場合を含めても、単一の原因は見なすことができない。これは「Actual Predisposition」の病原の理論につながる。それは処分である病因のパターンである。ある条件で干渉が発生する前の状態であり、干渉の発生に直接影響を与え、トリガーとして作用する。直樹は「失敗作」と呼ばれる傾向があるので、直樹が本当の計画を見つけた時、彼は怒っていると感じている。そして、修也が失敗したと彼に言った時に、「失敗作」という言葉が彼に誘発された。それで彼の復讐のために殺させた。これは次のデータに説明される：

あ、そうだ。共犯とか、気にしないでね。最初から仲間だなんて思っていないから。能なしのくせにプライドだけは高い、そういうヤツが一番嫌いなんだ。発明家の僕からしてみれば、君はあきらかに人間の失敗作だよ。

(Minato, 2008 :192).

それから、修也は、嫉妬に反応し、よく非常にインテリジェントであり、犯罪で計画的な計画を立てる、「Leptosomatic」な心理的側面を持つ組織された殺人者である。彼の殺害を実行にあたり、常に彼の作戦をうまく考え、できるだけ計画を段階的に進めるようにした。これは次のデータに説明される：

八月三十一日、今日、学校に爆弾を仕掛けた。遠隔操作式爆弾のスイッチは、ケータイの発信ボタンだ。爆破装置に組み込んだケータイを振動させることにより、爆発する仕組みになっている。このためだけに新規契約したケータイだが、番号さえわかれば誰のケータイでもスイッチになり得るし間違い電話でもかかってくれば、五秒以内にポン！だ。
爆弾は体育館ステージ中央の縁台の中だ。

(Minato, 2008 : 231-232).

一方、直樹は心理学的側面として「Picnic」と未組織殺人者である。それは復讐に反応し、自発的に殺す。また、彼はサディスティックに殺すことを躊躇しなく、高い気質を持っている。手始めに、直樹は誰も殺すつもりはなかった。しかし、修也が本当の計画を言ったとき、直樹は怒りと復讐を感じ、修也を打ち負かすために人を殺し続け、優れていると感じさせた。これは次のデータに説明される：

徐々に意識を取り戻した森口の子と目が合ったのと、僕が手を離れたのとは、どちらが早かったのだろう。僕は振り返らずにプールから出ていった。もう、足は震えなかった。僕は、渡辺が失敗したことに、成功したんだ。

(Minato, 2008 : 195).

結論

渡辺修也では、犯罪を引き起こした原因は次のとおりである：1). 家族の愛情不足 2). 母親の念を引くことができなかった 3). 彼の先生に対する復讐。そして、下村直樹では、犯罪を引き起こした原因は次のとおりである：1). 「失敗作」と呼ばれるを傾向である 2). 修也に対する復讐 3). 自己制御性はない。

犯罪の背後には確かに一定の動機と目的がありますが、原因となる要因は、心理的側面だけでなく、それらの周りに起こっている状況によって引き起こされる可能性がある。時には、誰かや悪い呼び方にこだわりのような小さなコントロール不能なものは、人に悪い行動を引き起こす可能性がある。この研究の概要では、「人間がなぜ殺すのか」という答えは、すべての人間が自

分自身の暗い側面を持っているからである。すべての人間が暗い側面で戦おうとするけど、それが全部勝つことはできない。すべての人間は殺す可能性があるけど、それはそれぞれの個人がその能力を利用するかどうかによって異なる。



DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI.....	iv
KATA PENGANTAR.....	v
DAFTAR ISI.....	vii
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah	4
1.3 Tujuan Penelitian	5
1.4 Metode dan Pendekatan	6
1.5 Organisasi Penulisan	8
BAB II KRIMINOLOGI DAN PSIKOPATOLOGI	9
2.1 Kriminologi	9
2.1.1 Teori Kriminologi	10
2.1.2 Aliran Kriminologi.....	11
2.2 Psikopatologi	14
2.2.1 Faktor Penyebab Perilaku Abnormal	15
2.3 Teori Psikopatologi Dalam Kriminologi.....	17
2.4 Klasifikasi Kepribadian Psikopatologi-Kriminologi	19

BAB III TINDAK KRIMINAL TOKOH UTAMA DALAM NOVEL KOKUHAKU KARYA KANAE MINATO	23
3.1 Faktor Penyebab Perilaku Kejahatan	23
3.1.1 Faktor Penyebab Perilaku Kejahatan oleh Shuya Watanabe	23
3.1.2 Faktor Penyebab Perilaku Kejahatan oleh Naoki Shitamura	31
3.2 Klasifikasi Kriminal dan Klasifikasi Kepribadian	36
3.2.1 Klasifikasi Kriminal dan Klasifikasi Kepribadian Shuya Watanabe	35
3.2.2 Klasifikasi Kriminal dan Klasifikasi Kepribadian Naoki Shitamura	42
BAB IV KESIMPULAN	46
DAFTAR PUSTAKA	51
SINOPSIS	53
RIWAYAT HIDUP PENULIS	58